




図書委員さんの「いちばん心に残っている本」第3弾をお届けします。

春休みの長期貸し出しも始まりました。この機会にたくさん借りて、たくさん読んでください。

 → 蔵書あり



## 『お隣さんが殺し屋さん』

藤崎翔 著

KADOKAWA

今自分が一番心に残っている本は、『お隣さんが殺し屋さん』という本です。この本の心に残っている場面はたくさんあるのですが、その中から2つ紹介します。まず1つ目は、専門学校に入学するために田舎から上京してきた美菜という女性が、引っ越し先の隣人に挨拶をしに行くシーンです。2つ目は、引っ越しをした美菜に、美菜の両親が電話をしている所です。この場面の、美菜に対する母の優しい心と父の思いやりのある心が良いと思いました。

この本で私は、他人に対する言葉遣いや人を思いやる心を持って生活していこうと思いました。

(遠藤棕翔)



## 『ぼくらの大脱走』

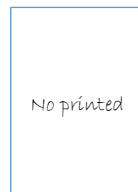
宗田理 著

KADOKAWA

私はあまり本を読まないのですが、中学生の時に『ぼくらの大脱走』という本を本屋で見つけて、読んでみようと思いました。この本は、「ぼくらシリーズ」というシリーズの中の1冊で、島に監禁された友達を救うという話です。そのために色々な計画を立てたり、島にいる殺人犯からどのようにして逃れるのかなど、読んでいてドキドキしました。

この本のように、仲間たちで話し合いをすることでよいアイデアが浮かぶのではと思いました。ぜひ読んでみてください。

(ペンネーム トミー)



## 『青鬼 ジェイルハウスの怪物』

noprops 原作, 黒田研二 著

PHP研究所

私が一番心に残っている本は『青鬼 ジェイルハウスの怪物』という小説です。児童向けの本なのですが、ストーリー性がとても深く、読んでいく内に夢中になってしまうほど面白い内容になっています。現在も続いているシリーズ物なのですが、話もしっかりと続いていて、飽きさせないようにイラストもあり、読みごたえがあります。

人気ホラーゲームの『青鬼』が元になっているのですが、別の世界線(パラレルワールド)の話になっています。ホラーですが、時にはおふざけ要素もあり、楽しく読むことができます。なので、本を読むのが嫌いな人も含め、多くの人に読んでほしいと思います。

(ペンネーム プログーマーになりたくないゲーマー)



## 春休みの貸し出し

図書：5冊まで

雑誌：2冊まで

返却期限は4/16(金)です。

